

# 会 議 録

## 1 会議名

平成27年度第6回三郷区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### (1) 諮問除外事項について（公開）

六合公園の管理運営方法の変更について

### (2) 平成27年度地域活動支援事業の完了について（公開）

### (3) 平成28年度地域活動支援事業の審査・採択ルール等について（公開）

### (4) 意見交換（公開）

高齢者の取組について

## 3 開催日時

平成28年2月18日（木）午後7時00分から午後8時04分まで

## 4 開催場所

高田地区公民館三郷分館 集会室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 山口典夫(会長)、佐藤茂樹（副会長）、市川雅之、竹内浩行、  
土田 勝、細山雅生、宮澤良一、横尾彰平

・事務局： 南部まちづくりセンター 橋本センター長、槇島係長  
農林水産整備課 川瀬課長、長谷川主任

## 8 発言の内容（要旨）

### 【槇島係長】

- ・保倉副会長、市川優子委員、山田委員を除く8名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は山口会長が務めることを報告

**【山口会長】**

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：市川雅之委員、竹内委員に依頼

次第2「議題等の確認」について事務局に説明を求める。

**【橋本センター長】**

資料により説明

**【山口会長】**

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

続いて、報告(1)「諮問除外事項について、六合公園の管理運営方法の変更について」農林水産整備課に説明を求める。

**【農林水産整備課 川瀬課長】**

資料No.1により説明

**【山口会長】**

質疑を求めるがなし。

続いて、報告(2)「平成27年度地域活動支援事業の完了について」事務局に説明を求める。

**【橋本センター長】**

資料No.2により説明

**【山口会長】**

質疑を求めるがなし。

続いて、議題(1)「平成28年度地域活動支援事業の審査・採択ルール等について」事務局に説明を求める。

**【榎島係長】**

資料No.3、4、5により説明

**【山口会長】**

質疑を求めるがなし。

平成28年度の審査・採択の基本的なルール、採択方針等、募集期間を提案のとおりとすることで委員全員の了承を得る。

続いて意見交換（１）「高齢者の取組について」事務局に説明を求める。

**【榎島係長】**

資料No.6により説明

**【山口会長】**

参加委員に視察の感想を求める。

**【横尾委員】**

自分自身が元気で、農作業により体を動かすため、このサロンに参加する積極的な意識はない。

三郷は何をしても参加者が少なく、横のつながりも薄い。振興会のような組織、全体を束ねるような組織が必要である。学校の行事への参加も少ないとの声もあった。

三郷は昔から豊かな土地であり、切羽詰まったという意識も薄い。自分たちの取組には一生懸命向かうが、三郷全体という動きにならない。

**【山口会長】**

宮澤委員に発言を求める。

**【宮澤委員】**

自分自身は誘われたこともあり、このサロンに参加している。同年代の男性もかなりいる。医師の健康相談、指導も時々ある。高齢者向けの体操もある。老人向けのよい集まりで、これからも参加していきたい。

**【山口会長】**

土田委員に発言を求める。

**【土田委員】**

牧区のサロン参加者に比べ、三郷区の参加者の若さに驚いた。我々も体操に参加したが、介護や認知低下の予防にはいいと感じた。80代がほとんど来ておらず、牧区では80代が多かったような気がして、三郷のほう生きいきして元気であった。

このようなサロンは三郷地区に必要であり、実際に見て、良い状況であると思った。団塊の世代は、10年後には後期高齢者になる。そのため65歳から70歳くらいの方が参加することは、介護や認知低下の予防になると思う。

いつも同じメンバーになってしまっているようだ。ある町内の女性がサロンを始めようと呼びかけたところ、年長者から否定的なことを言われ、進めたくないという意見もあったが、我々も町内の会合などでサロンの宣伝をしたほうがよい。

今後、地域へ移管されることも考え、人材の育成もあるかと思う。サポーターには看護師がおられ、コーディネーターの方は非常にしっかりしていた。そのようなメンバーはある程度、三郷にいるのではと思う。中身は動いているが、外側の器自体がまだはっきりしていない。今後移管されるのであれば、人材を育てていくことが必要と感じた。

【山口会長】

市川委員に発言を求める。

【市川委員】

趣味が合うなら、参加者は増えると思う。楽しくなければ、移動手段があっても行こうと思わないのではないか。また、年を取って運転できなくなれば、だれが連れて行ってくれるのかなと気になった。

【山口会長】

課題や解決策などの意見を求める。

【横尾委員】

研修概要の課題には実施主体を地域に移す必要があるとあるが、その場合には組織の問題が出てくる。

【山口会長】

参加者からは、脳の活性化や、一人でいるよりは良いという話があり、いい取組だと感じた。認知症予防にもなると思う。

ただ地域に移管した場合にどうなるかである。視察した牧振興会は市町村合併時に立ち上げたと聞いた。そのような組織の立ち上げにはノウハウが必要で、行政経験者、あるいは介護施設での経験があるとか、そういう方を中心にすればよいが、三郷は一から組織を作ることが今後の課題だと思っている。

市は、15区では社会福祉協議会へ委託しJAが再委託され、三郷と高田で実施しているとの説明だった。13区ではそれぞれの振興会に委託している。

三郷では、その土台を作った人がその事業に携わるのが良いのではないか。新聞

報道にあった妙高市の全町内でという方法がよいのか、上越市が取り組む各地域への委託がよいのか。

平成28年から29年には地域で実施できればとの話もあったが、移管するとなると課題は多いと感じている。今の土台を作ったJAと各町内が協議体をつくり実施したほうが、スムーズにいく気がする。

竹内委員に発言を求める。

#### 【竹内委員】

JAの持っているノウハウで動いていくのは良いと思う。組織も大事だが、ノウハウを持っている者が強い。現在の三郷分館だけでなく、各町内を出前開催で回り、参加の入り口を広げたほうがよい。

藪野にも笛吹の里があり、働きかければ違った形のものができる気がする。自分自身は笛吹の里の評議員をしており、話を繋げられると考えている。ただ笛吹の里はかなり専門的であり、健康な方は抵抗があると思う。

自身の職場でも、60歳以上の人にヘルメットに高齢者用のマークをつけるよう指導が入ったが、反発された方もいた。年寄扱いされたくない人は積極的には参加しないと思う。意識が若いため参加しなくてもよいと思っているが、その防止と考えて早い段階で動いたほうがよいのではと思う。JAや近隣の介護施設の力を借りながら進めるのも一つではないかと感じた。

#### 【山口会長】

細山委員に意見を求める。

#### 【細山委員】

私も三郷区では、JAを含めてやり方を考えないと無理だと考える。

町内の行事も年々参加者が減っている。私の町内では、集落からこの三郷分館まではやはり距離があり、仲間で声をかけて、来るような人の層が少ない。年齢層では70代が多く、80歳以上の層が減っている。60代から70代の前半はまだ老人会に抵抗のある元気な人が多い。集落で取り組むとしても、まとめ役がいなくともあるだろう。

#### 【山口会長】

佐藤副会長に意見を求める。

**【佐藤副会長】**

いきいきサロンを主体的に取り組むのはなかなか難しいと感じた。

少し違う例だが、ここでの公民館活動で、何年かすると自主的に活動するというのが市の方針となっているが、なかなかうまく切り替えができない。市川委員の言う同好会的な集まりならまだしも、いろいろな年代の人たちの集まりとなると、運営に長けた人がある程度いないとうまくいかない。高齢者に限らず、人を集めた取組では同じ傾向があると思う。

若い年代層の高齢者は層が厚いが、年齢が上になると人数が減り、元気であってもグループとして集まらない。出前サロンであれば参加できるが、遠い会場だと行くことができないというのものもある。今回視察したときの参加者は近くの方が多かったのか。

**【山口会長】**

今池、辰尾は車で来られる方々だった。男性は長者町。

**【佐藤副会長】**

そういう好条件がそろわないと遠くからは来られないと思う。総合的に考えると、運営する人には手段、手法が必要な気がする。

**【山口会長】**

皆さん言われるように、携わったことがない人にいきなり始めてほしいとお願いしてもできないと思う。JAもいきなり全て地域で運営してくださいとは言わないとは思う。運営するには、先ずそこから話を進めて行く必要があると思う。今日結論が出る話ではないので、次期委員に引き継ぎ、一つの課題として自主的審議な取組を進めて行ったらと思うがいかがか。

いきいきサロン、支え合い事業は市の事業であり、ある程度予算措置はどうか。

**【橋本センター長】**

13区については、車両や備品などを補助金で購入している。

**【山口会長】**

活動をすれば予算が必要になる。いきいきサロン三郷でも予算があると思われる。車で来られない方の問題が一番の課題である。牧区のように車両を所有し、参加者を連れてくる、そのためにまずは母体を作ることが必要である。

J Aが母体となり、各町内の民生委員と連携して支援員を養成し、町内役員の中に担当者をおき、三郷区全体の支援員の団体を核にJ Aと話をしていくのが良いのではないか。今この場でどうこうというものではないが、課題と解決策の一つとしてはということだ。新たな振興会を作るのも大変だろう。

市川委員に意見を求める。

**【市川委員】**

横尾委員のいうとおり、多くの団体で少子高齢化の問題を考えている。それをどこかで総合的に管理しなければならない。

例えば、三郷地区の農地管理は誰がするのかということ。採算が合わないということでやめたら、野ざらしになってしまう。それでもやろうとしなければ、その地域は荒地地になってしまう。

**【山口会長】**

各団体と協議して、三郷区の振興協議会とかを作れば、そこでまとめるということではないか。そのような団体はなかったのか。

**【市川委員】**

既存の組織の一部分を格上げするなど、方法はあるのではないか。

**【横尾委員】**

この近辺では高土地区に活発な組織がある。

振興会にはこだわらないが、三郷地区として一つの旗の元にまとまり、皆で協議をしてさまざまな事業に一人でも多くの参加者が出れば活性化する。単発的に回覧板を回し、集まってみたら参加者が少ないのでは活性化したとは言えない。

平日開催のいきいきサロンも参加者が65歳から70歳で、現役の人も多くいる。田んぼに出るような年代である。よほどの魅力がないと参加者は少ないと思う。

**【山口会長】**

どこの区も平日の開催である。社協、J Aの職員の勤務の関係もあるのだろう。

**【横尾委員】**

三郷では土日開催で人が集まるかという自信はない。

**【山口会長】**

当初、土日なら参加者がいるのではと思った。地域で行う場合、それが可能なの

かは分からないが人を集める一つの方法だと思う。

その前段階として、各団体を取りまとめる振興会のような受け皿となるものをどう立ち上げ、その後どのようなことができるか。

地域協議会から提案をするのも方法であるが、果たしてそこまでしてよいかどうかである。頸城区地域協議会が、行政の力を借りて観光協会を立ち上げたような形も、地域も了承すれば可能かなと感じた。

研究課題として、継続審議とすることで委員全員の了承を得る。

**【土田委員】**

町内会長連絡協議会での課題でも、高齢化の項目があった。地域協議会との方向性の一致を感じた。

**【山口会長】**

両輪だと思っている。

**【土田委員】**

少子高齢化について問題は同じだが、それをどのように模索していけるのかが課題となっている。

**【山口会長】**

誰が始めるかである。これは来年度の継続審議として、町内会長連絡協議会のメンバーも変更されていると思うので、また話合ってもよい。また、民生委員も絡んでいるし、JAと来てもらってもよい気がする。来年度以降の継続審議とすることをまとめとして、委員全員の了承を得る。

続いて、次第6事務連絡について、事務局に説明を求める。

**【橋本センター長】**

- ・次期委員の公募期間：3月9日（水）～3月21日（振替え休日）午前8時30分～午後5時 南部まちづくりセンター
- ・地域協議会活動報告会：3月6日（日）午前10時 三郷分館
- ・地域協議会だより：3月1日号（第24号）発行予定

**【山口会長】**

地域協議会活動報告会へ、多くの委員の出席をお願いする。

事務局からの説明に対して、質疑を求めるがなし。



・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 0 2 5 - 5 2 2 - 8 8 3 1

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。